

経営比較分析表（令和4年度決算）

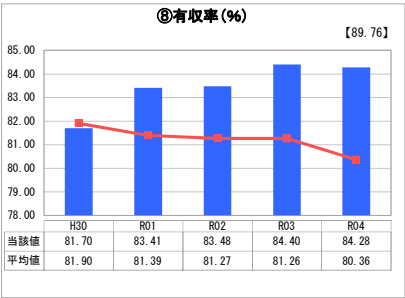
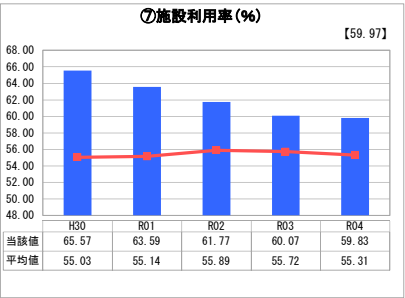
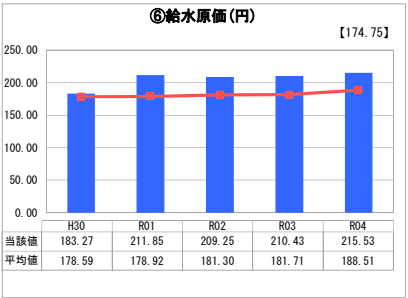
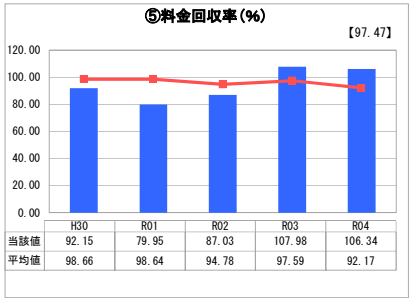
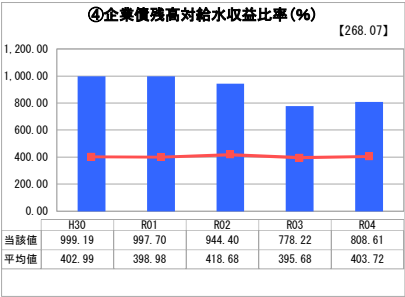
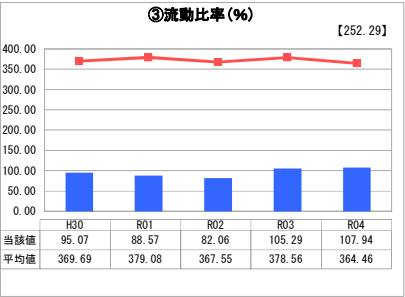
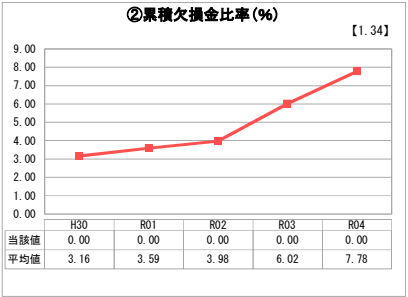
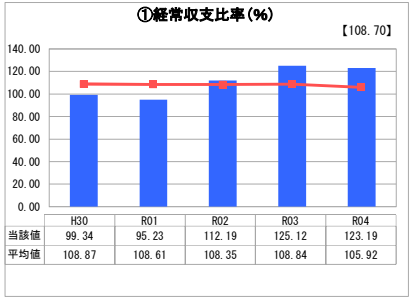
京都府 宮津市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	36.67	99.87	3,853	

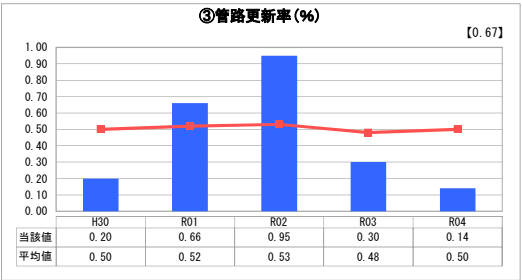
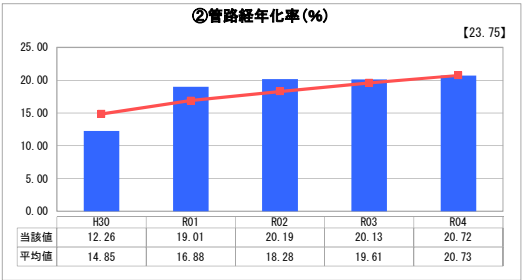
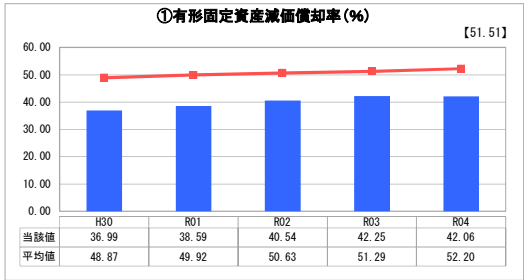
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,721	172.74	96.80
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,533	16.73	988.22

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
令和2年10月に料金改定を実施したことや大口使用者の有収水増により給水収益は増となったものの浄水施設等に係る維持管理費が増加した影響により経常収支比率は前年度に比べて減となっている。

③流動比率
平成30年4月に簡易水道事業と経営統合したことに伴い、100%を下回っていたが、料金改定に伴う給水収益の増により流動比率は改善している。

④企業債残高対給水収益比率
基幹浄水場の大規模改修や老朽配水管布設替等の実施により、類似団体と比較すると高い比率で推移しており、令和4年度は浄水場の改修及び10T化に向け、前年度比約145%の企業債の借入を行ったことから増となっている。

⑤料金回収率
簡水統合により100%を下回っていたが、令和2年度に料金改定を実施したため、回収率は改善され、R4においても100%を上回っている。

⑥給水原価
簡水統合により類似団体よりも高い水準となっている。今後、更なる投資の効率化や維持管理費の削減等を行う必要がある。

⑦施設利用率
類似団体と比べると高い水準となっているが、給水人口減等の理由により減少傾向にある。今後も施設の統廃合などによる再構築を図り、更なる効率化を推進する。

⑧有収率
老朽化した施設の更新、管路の更新等により漏水を抑え、収益につながっていることが読み取れる。今後も引き続き施設の統廃合や老朽管の布設替え等を計画的に実施していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
平成30年度は、簡易水道との経営統合により率が低下したものの、法定耐用年数に近い資産が多いことから上昇傾向にある。今後も施設の長寿命化等により適正な施設状況を維持していく必要がある。

②管路経年化率
耐用年数超過の管路が増加しているため、今後は老朽管等の計画的な布設替等を実施していく予定である。

③管路更新率
令和4年度は令和3年度に引き続き部材調達が困難であったことと、管路以外の施設整備に注力したことにより、更新率は低下した。今後は計画的に老朽管の布設替を行っていく予定である。

全体総括

令和2年10月に料金改定を実施し、令和3年度以降経営状況は改善されている。しかし、給水人口の減少、老朽化施設の更新など、経営を取り巻く環境は非常に厳しくなることが予想されることから、令和元年度に策定した水道事業ビジョンに基づき、費用抑制への取組をさらに進めていくこととしている。